

## 村田川中流域基盤整備で住みよく活気あふれる町づくりを！

村田川は長柄町を源流に、市原市に入り千葉市緑区を経て再び市原市に、そして市原市と千葉市の間に流れて東京湾に注いでいます。中流域北面沿いには、あすみが丘団地・けやき台団地・ちはら台団地等大小新興住宅団地があります。流域に沿った水田は基盤整備がなされていなく耕作放棄地が多く、里山は荒れ放題の現状です。この地域の水田は米の食味は良く昔から地域住民に好まれています。そして、この地を散策する人々は年々多くなりました。又、遠くから名所『瀬又の貝層』に訪れる人が多く、昔 10 くらい見えた貝層が今では崩壊したため 2 くらいしか見えません。その外、横穴古墳・貝塚・由緒ある神社など地域住民が誇れる名所古跡があります。

最早農地は農家だけのものと考えるものではありません。地域住民に安らぎを与え、安心・安全な食料生産のディスプレイとしての価値があります。そして荒れ果てた里山を含めた地域一帯を整備することが必要とされています。しかし、これらのことは地域住民だけでは成し遂げることはできません。それには地域住民が一丸となって行政の力を借りて推進するため次のことを提言します。

### 1・河川整備と遊歩道・サイクリングロードの整備を！

河川整備は基盤整備の基本です。これに付随する水辺の遊歩道・サイクリングロードは平坦で、車道と併用の道とは違う安らぎを与え、又通学路としても最適でしょう。

### 2・水田の基盤整備及び農産物直場の建設を！

ダム効果・地下水の保全・景観などと食料生産の場だけでなく、水田の多面的機能が近年重要視されています。そして近い将来世界的食料不足の到来も考え、地域で生産された食料を地域で消費することを原則とする地産地消の基盤でもあると考えられます。これらの農地を守る者を育成するには、生産効率のよい水田の基盤整備が是非とも必要です。又地元の農産物を地域住民に優先して販売できる直売場も必要です。

### 3・ビオトープや里山などの自然環境を配慮した整備を！

今の水田では昔多く見られた多くの生息物が姿を消しています。これらの生息物を守り育てる場所を設け人々の安らぎの場や教育の場として活用していただきたいものです。

散策は水辺の遊歩道だけではよいのでしょうか。森や林に自由出に入りできればもっと楽しさが広がります。そして整備された里山の森林浴は快適です。

### 4・名所古跡の整備を！

村田川流域には、『瀬又の貝層』などの多くの名所古跡が未整備のままです。又訪れるには危険な場所があり緊急に整備したいものです。そして、多くの人々に安心して観てもらうためには案内板を建て、特に有名な名所『瀬又の貝層』には是非、博物館を建設して多くの人々に来訪していただき納得のいく説明がなされるようにしたい。

### 5・厳しい今だからこそジックリ考え実りあるものに育てよう！

既にバブル経済はリセットされ、その後遺症が続き、行政財源は厳しさを増しているなか、何とか元気ある町にしたいと思うのは官民共通の考え方です。そこで、名所古跡を生かしながら地域を整備することが、住民の生活環境をよくすることだけでなく、名誉になることです。そして地域経済の活性化に繋がることと確信します。

## 水田圃場整備について

近年耕作放棄等によって水田の荒廃が目立つなか、近い将来世界的食糧不足が懸念されている。一方、デフレ経済による飽食の時代に米余り現象が続くため、減反政策が厳しくなってきた。しかし、日本の米は日本人にとって無くてはならない食糧であり、これを堅持する政策は今後も続くものと思われる。

2000 年に制定された『食料・農業・農村基本法』は自給率の向上を目指すとともに、長い間続いた食糧統制を撤廃して、農産物は農家が自由に作って自由に売れるようになりました。また農地は景観・環境の保全など多面的機能を重視するようになりましたが、担い手不足のためその維持管理が問題視されています。

2005 年に 5 年ごとに見直される『食料・農業・農村基本計画』で、更に自給率の向上を目指していますが、社会情勢の移り変わりが激しく、行政財源が緊迫するなか県予算が削減されることがみられます。しかし、明るい展望がみられる計画については、県の削減分に対して市が肩代わりするなど積極的に支援する面もあります。よって以下の目標を全部達成するには今すぐ困難でしょうが、長期的展望にたって積極的に推進したい。

### 1. 圃場(水田)基盤整備の意義

- ① 作業効率の向上→大型高性能機械が導入しやすい。
- ② 冠排水が自由に出来、湛水化・裏作・転作がしやすい→年間湛水化による抑草・環境保全効果。水稲との輪作により連作障害の心配が無い。高額転作補助金(地域水田ビジョンにより見直される模様)が受けやすい。
- ③ 農地の貸し借り・交換・売買が容易→安心して農地を貸すことが出来、利用集積が出来て作業の能率がはかれる(利用集積により貸し借りした場合は市より助成金が支給され、売買の場合は 800 万円又は 1500 万円の特別所得控除、買い入れた場合は登録免許税・不動産取得税の減額が得られる)。
- ④ 減歩して主要道路や下の 4 項①③の用地などに譲渡し、個人の負担金を軽減することができる。

### 2、基盤整備の条件

- ① 県営事業→20ha 以上を目標とする。(以下の場合は地元負担金が多くなる)
- ② 市の農業振興計画に合わせ、農振農用地区(農振区域)に指定する。
- ③ 作業効率を高めるため、農業経営基盤整備促進法(中核的農家を育てる為の法)による担い手又は、集落営農組合(地権者と耕作者が組合員)への利用集積(田植え収穫作業等の基幹作業受委託を含む)面積が 30%以上とする。(以前は認定農業者にであった)
- ④ 事業費と負担金→事業費は 10a 当り 200 万円くらい。そのうち国が 50%、県が 30%、市が 10%、地権者が 10%負担。

### 3、その他

- ① 高性能機械の導入に高額補助金が得られる。
- ② ブランド米(食味値 75 以上)などの育成により有利販売ができる。
- ③ 観光・文化資源などの活用→『瀬又の貝層』などの整備(博物館の建設)。ビオトープ・水力発電・水車小屋の建設。直売場・農産物加工施設・レストランの設置等により雇用創出の場ともなる。(テーマパーク化)

## よくあるご質問

**1. 質問：圃場整備より里山や河川・道路の整備を進めてはどうか？**

答：圃場整備には権利の移動等年月がかかるだけでなく、河川・道路の整備だけでは行政の理解がえられない。長期的展望に経って地域の在り方を考えるべきでないでしょうか。

**2. 質問：この構想を実現させる為には今後どのような方法で進めるのか？**

答：先ず計画区域の圃場地権者の同意を得なければならず、地権者名簿を作成しなければならず、ただ今その作業をしています。そして、この計画に賛同されるボランティア(できればEメール連絡できる方)を募り、プランニング・市原市長と千葉市長に要望いたします。

**3. 質問：ボランティアは計画地域の者でなければならないか？**

答：基本的には計画地域の方がいいでしょうが、この計画に賛同・ご意見戴き、積極的にご協力戴ける方ならば地域に拘らないつもりです。

ご意見・ご感想・ご質問等は [hxckm638@ybb.ne.jp](mailto:hxckm638@ybb.ne.jp) までお待ちしております。